

◎特別支援学校（知的障害）

知的障害のある児童の学習理解を促す I C T 等機器の活用 ～調理活動を中心とした生活単元学習の実践～

1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 生活単元学習
- (2) 学部・学年 小学部 5 年

2 単元のねらい及び計画

- (1) 単元名「校内合宿に向けて調理をしよう」

(2) 単元のねらい

- ・合宿を楽しみにして、調理をしようとする。
- ・簡単な工程が分かり、調理する。
- ・調理した物をみんなで食べる。

(3) 単元計画

次 (配時)	主な学習活動	活用する I C T 等支援機器・ アプリ名等
一 (2)	・合宿があり、みんなで調理を知ることを知る。 ・どんなものを作ってみたいか考える。	カレンダー 食べ物カード
二 (1 2)	・調理活動 ピザトースト、目玉焼き、ラーメン	調理の手順カード TV、iPad、アプリ（ウゴトル動画）
三 (2)	・校内合宿で調理をしよう。	調理の手順カード

3 授業での活用実践

(1) 活用のねらい

- ・学習課題である手の動き「両手で卵を割る手の動き」に注目する。
- ・活動を録画し即時再生し、自ら確認したりみんなで振り返ったりする。

(2) 児童生徒の実態

- ・小学部 5 年 16 名（男子 9 名、女子 3 名）
- ・言葉の指示だけで課題を理解し動ける児童は少ないが、視覚的支援を活用することで理解し、動ける児童は多い。
- ・教師の動きや TV の中の手の動きに注目する児童が多く、調理活動には意欲的である。

(3) I C T 等支援機器の活用方法・工夫点

学習課題である「両手で卵を割る手の動き」を TV で動画を用いて説明した後、児童の両手の使い方を iPad で録画した。その場ですぐ再生し、できている動きを評価したり、よりできるようになるための改善点を伝えたりした。また、全体の場で TV に映したりした。

- ・課題の提示では、全体の場面で TV に動画を映した。その際、動画の速度をスローにし、ポイントとなる手の動きの確認をゆっくりと見て確認できるようにした。その上で、一時停止し、静止画でも確認できるようにした。＜写真1＞
- ・個々の活動の前にも個別で手の動きを確認できるように、iPad で動画を映し児童の近くで再生した。 ＜写真2＞
- ・個々の調理活動を iPad で録画し、活動後すぐに個別に再生し、できているか確認した。 ＜写真3＞
- ・全体の振り返りでは活動の様子を TV で再生し、個々の活動の様子をみんなで認め合えるようにした。

＜写真1＞



＜写真2＞



＜写真3＞



(4) 活用の効果及び課題

- ・言葉だけでなく、動画や静止画を使って伝えることで、児童の理解が深まり、前は、片手で卵を握りつぶして割っていた児童が、両手で卵を割ることができた。
- ・iPad とアプリ（ウゴトル動画）を活用することで、簡単に録画・再生できたり、再生速度を変えたり、コマ送りで見せたい場面を提示したりすることができ、個別の支援がしやすかった。
- ・細かい手の動きを伝えるための言葉の説明が多くあったため、動画の画面に手の動きのポイントとなるキーワードを提示し、児童が手の動きを「動画＋文字」で理解できるような工夫が必要である。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・動画撮影の角度を児童の視線に合わせた。
- ・文字も書き込め、速度も自由に変更できるアプリ「Coach's eye」を活用し、動画を編集し、児童に提示した。

(2) 改善後の効果

- ・動画を児童の視線と同じにして撮ることで、より手の動きを分かりやすく伝えることができた。
- ・注目するポイントが文字や丸印で提示され、より自分の手の動きを理解することが深まった。